

電子部品株に妙味あり

本業に目を向け始めた株式相場

[前回のレポート](#)では、「円高で減益」になっても本業の好調さを評価して買われる銘柄があることを指摘して、相場の地合いが良くなってきたと述べた。この流れは週明けの 25 日も継続した。22 日の取引終了後に日本電産が発表した 16 年4～6月期の決算は、純利益が前年同期比5%減の 220 億円だった。しかし、25 日の東京市場では日本電産は買い気配で始まり 4%超上昇して引けた。円高で海外収益が目減りしたが、車載向けモーターなどが好調に推移し、営業利益は四半期として過去最高だった。

業績観測報道が出たマツダも買い気配で始まり 6%近い大幅高を演じた。23 日付の日本経済新聞朝刊が「マツダの 2016 年4～6月期の連結営業利益は、前年同期比6%減の 500 億円前後だったようだ」と報じたが、アナリスト予想の平均であるQUICKコンセンサスは 330 億円だからポジティブ・サプライズだ。マツダの主戦場は欧州で、欧州といえば BREXIT の影響が懸念されたが実際には影響はほとんどなかったことがわかった。英国は国民投票で EU 離脱を決めたが、実際には離脱交渉すらスタートしていない。影響がないのは当然であろう。

日本株相場は、円高による評価損や収益の目減りはもう織り込んだ。そのうえで本業の受注や売上高の伸びを見始めたのは、市場のセンチメントが改善し地合いが良くなった証拠である。それが前回のレポートの主旨だったのに、読者からこういう投稿が来た。

「既に上がった銘柄を紹介されても役に立たない。これから上がる銘柄を上げる前に教えろ」

買われた銘柄を取り上げたのは、その背景を語り、相場の質的な変化を指摘することが目的で、銘柄の推奨をしようと思ったわけではない。これまで何百回、何千回も言ってきたことだが、「これから上がる銘柄を上げる前に当てる」ことができるなら、ストラテジストなんて商売、やってない。超能力者じゃあ

るまいし。しかし、「上がる銘柄を事前に当てるなんて不可能である」という至極当たり前のことを何百回も繰り返していても芸がないので、たまには読者サービスをしようかという気にもなり、有望な銘柄を考えたところ電子部品メーカーの株をお勧めしようと思うのである。

電子部品の受注低迷

とにかく電子部品は市場で人気に離散した出遅れ業種とのイメージがある。その背景は受注額の落ち込みであろう。先週も日本経済新聞が電子部品大手の受注額が一段と落ち込んでいるとの記事を掲載した。報道によれば、村田製作所やTDKなど大手6社の2016年4～6月期は前年同期比7%減の約1兆2400億円となった。3四半期連続の前年割れで減少率は4%減だった1～3月期より拡大した。

電子部品の受注額が落ち込んでいる理由は主に2つ。ひとつは円高による目減りと、もうひとつはアップルによるiPhoneの減産だ。高性能部品を強みとする日本勢はアップル向け比率が高く、その動向に左右されやすい。

しかし、それが理由で電子部品メーカーの株価が冴えないならば今後、見直し買いが入る可能性がある。まず、円高による受注額の減少だが、これは冒頭でも述べた通り、市場は円高の悪影響を織り込んで、実際の受注量を見始めている。日経記事によれば、4～6月期の受注額が15%減少した村田製作所のケースでは、為替要因を除けば落ち込み幅は5%程度だったという。為替で「額」が減る分は、もうそれほど悪材料視されなくなるだろう。

この秋のiPhoneは意外と売れる

次にiPhoneの減産・販売低迷だが、秋の新機種投入もあり、今後持ち直すのではないかと。そう思わせる材料がポケモンGOの大ヒットだ。当たり前だが、ポケモンGOはスマホ・ゲーム。もっと良い機種でプレイしたいというニーズが出るだろう。実際に、バッテリーがすぐなくなるらしい。それだけでなく、ずっとスマホ歩きをしていれば、モノにぶつかったり転んだりする。その拍子にスマホを落として壊すひともいるのではないかと。いずれにせよ、スマホをプラットフォームにしたゲームがこれだけ流行れば、更新需要はいろいろあるに違いない。

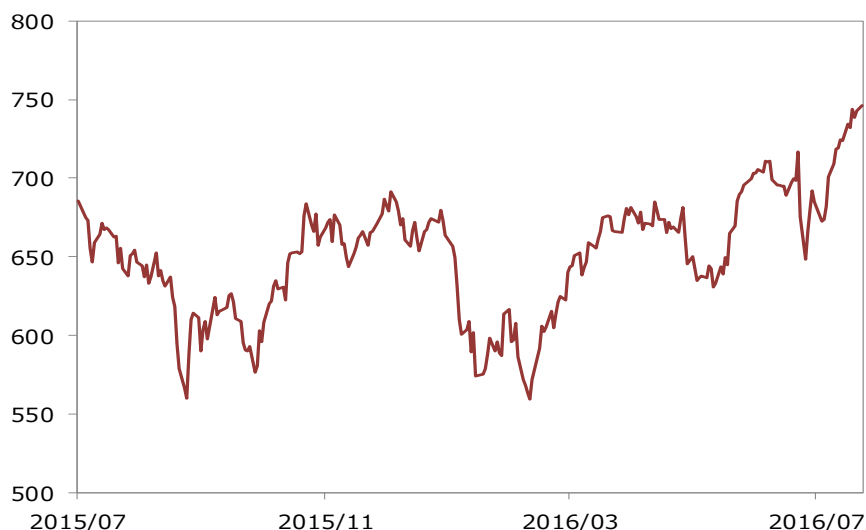
そして何より、ポケモンGOを遊びたいという子供が増えて、子供のスマホの保有が普及するだろう。この分だけでも新規ユーザーの純増になる。

と、いうわけでこの秋の iPhone は意外と売れると思うのだ。そうなれば iPhone の販売不振を理由に過度に低迷している電子部品株の見直しにつながるのではないかと。

ポケモン GO の人気がいつまで続くかわからない。けっこう、短命だったりするかもしれない。それでも、電子部品というのはスマホだけに依存しているわけではない。これから AI やロボットや IoT を中心とした第 4 次産業革命に必須なものは高性能・高精細な電子部品だ。どんなテクノロジーにも電子部品は必要とされる。

ソフトバンクによる買収で英 ARM が注目を集めたほか、米国の SOX (フィラデルフィア半導体株価指数) は一本調子の上昇を続けている。東京エレクトロも高値追いついた。つまり、全世界的に半導体関連株が買われている。単純に半導体の需要が高まっているからである。で、あれば高性能電子部品を手掛ける日本の電子部品メーカーにも早晩、見直し買いが入ると考えるのが自然ではないか。

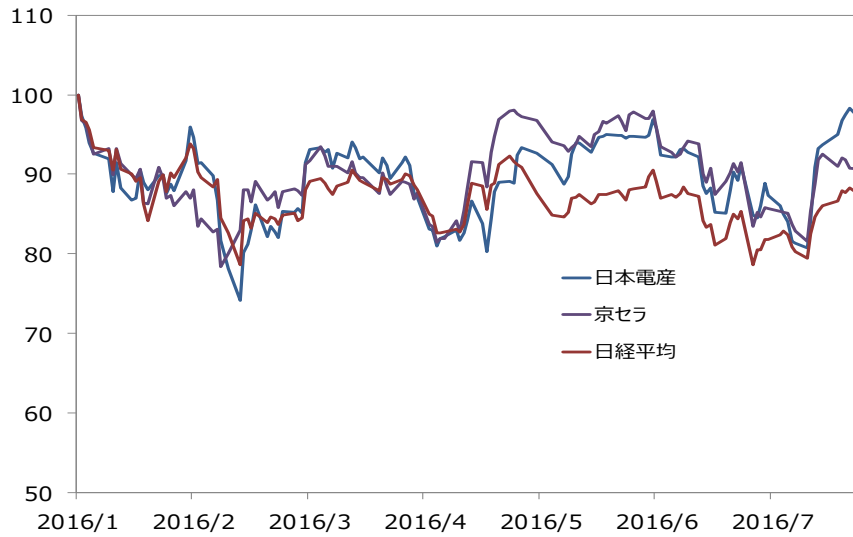
フィラデルフィア半導体株指数 (SOX 指数) の推移



(出所) Bloomberg のデータをもとにマネックス証券作成

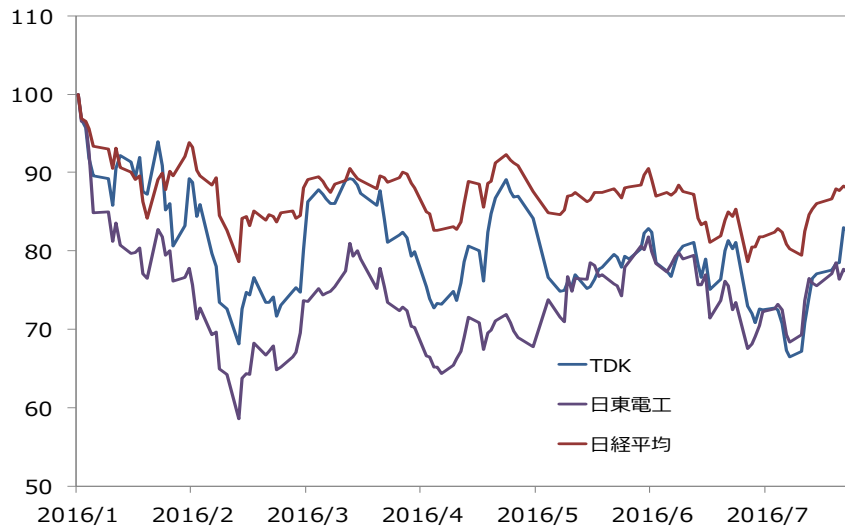
前述の日経記事が受注額を集計している電子部品大手 6 社とは村田、TDK、京セラ、日本電産、日東電工、アルプス電気だが、実は株価パフォーマンスにかなり差がある。自動車向けなどが堅調な日本電産は年初来高値をとってきている。それに対して村田とアルプスの株価は低迷している。逆張り狙うなら、この両社がおもしろい。

年初来相対株価①



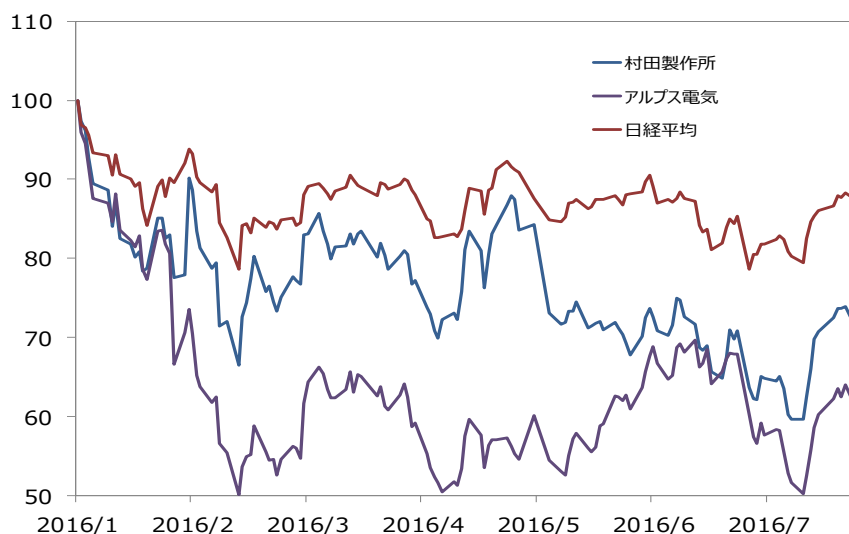
(出所)Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

年初来相対株価②



(出所)Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

年初来相対株価③



(出所)Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会